

学校名	淡路市立浦小学校
授業者	楫田 ふみか・生田 壮識

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

ビーチクリーンプロジェクト ～わたしたちのまち 浦の自然を守ろう～

1-2. 学年

第4学年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

社会科・総合的な学習の時間

1-4. 単元の概要

1. 健康な暮らしを守る仕事【社会科】

- ①ごみ調べを通して、集められたごみのゆくえに興味をもち、市内で集められたごみは夕陽が丘クリーンセンターで処理されることを知る（1時間）
- ②ごみ処理施設見学を通して、ごみ処理場の仕組みを知る（2時間）
- ③ごみの種類によって処理方法が違うことを知るとともに、ごみを減らす工夫について考える（1時間）
- ④生活の中でたくさんの水を使っていることに気づき、水の使用量について考える（1時間）
- ⑤自分たちが使っている水が、どこから来るのかを知る（1時間）
- ⑥浄水場見学を通して、汚れた水が自然に及ぼす影響を知る（2時間） ※見学中止

2. 浦川に棲む生き物を調査しよう【総合的な学習の時間】

- ①浦川に棲む生き物の種類や数などの調査を通じて、環境保全の大切さに気づく（2時間）
- ②淡路市の鳥「チドリ」の生息数が激減し、絶滅の危機に瀕していることを知る（1時間）
- ③海洋ごみが海や海辺に棲む生き物に与える影響を知る（1時間）

3. ビーチクリーンプロジェクト 塩浜海岸を美しくしよう【総合的な学習の時間】

- ①塩浜海岸の観察を通して、漂着ごみの様子を知る（2時間）
- ②海洋ごみについての調べ学習を通して、海岸清掃への意欲を持つ（1時間）
- ③海岸清掃の実施に向け、計画・準備をする（2時間）
- ④塩浜海岸の清掃活動を行う（2時間）

4. よりよい環境をめざして【総合的な学習の時間】

- ①清掃活動を振り返り、海岸清掃の必要性を家族や地域の人たちに伝えるための方法を考える（1時間）
- ②グループごとにテーマを設定し、啓発のためのポスターを作る（2時間）
- ③まとめの発表をする（1時間）

1-5. 単元設定の理由・ねらい

本校は、敷地内には自校田・畑を有し、海や山、川などが近く、豊かな自然に恵まれた環境の中にある。海岸清掃活動については、過去には生産・奉仕的行事として全校生で活動を行ってきたが、教育活動全体を見直す中で、特定の学年での取組へと変遷を辿っている。また、本県・本市では、「故郷を愛する心と誇りに思う気持ちを育て、地域の一員としての自覚を高め、人々とのふれあいを通じて未来を生きる力の育成」に取り組んでいる。

本校では、昨年度より第4学年における海岸清掃活動を年間指導計画に位置づけ、教科等横断的に取り組むことで、未来を生きる力のより一層の向上を図ることとしている。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

- ・川や海の環境保全に主体的にかかわろうとする意欲
- ・地域社会の一員として、課題解決に向け、他者と対話し協働する力
- ・障害のあるなしにかかわらず、互いに理解を深め、よりよくかかわろうとする力

1-7. 単元の展開（全23時間）

時 数	学習活動・主な内容	教師の指導（*） / 主な評価（★） 外部連携（◇） / 使用教材等（※）
8	<p>○ごみ調査を通して、集められたごみのゆくえに興味を持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の家では、いつ・どこへ・どのようなものを出すのかを調べる。 ・その結果をもとに、市全体のごみの量を考える。 ・市内で集められたごみが、どこへ行き、どのように処理されているのかを知る。 <p>○ごみ処理施設見学を通して、ごみ処理場の仕組みを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設見学で尋ねたいことをまとめておく。 ・施設見学で、職員の方のお話を聞き、ごみ処理の仕組みを知る。 <p>○ごみの種類によって処理方法が違うことを知り、ごみを減らす工夫について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資源として再利用できるごみがあることを知り、分別の大切さに気づく。 ・ごみの量の多さや資源を無駄にしていることに気づき、ごみを減らす工夫について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> * 3つの観点で1週間のごみ調査を行わせる。 * 児童から出された疑問点は、生活経験に結び付けて予想させる。 * 具体的にイメージが持てるよう、具体物に置き換えるなどの工夫をする。 ★ごみ収集作業をする人の苦労や工夫について理解している。 <ul style="list-style-type: none"> * ごみ処理施設ではどのようなことが行われているかを予想させ、見学の際に確かめたいことを考えさせる。 * 施設の方の話や施設の様子から、様々な苦労や工夫があることに気づかせる。 ★施設見学からわかったことや考えたことを、文章や絵などにして、適切に表現している。 <ul style="list-style-type: none"> * 自分が出したごみを想起させ、いくつかの種類に分けて考えさせる。 * 再利用されているものや形を変えて生まれ変わっているものがないか、自分の生活を振り返らせる。 ★これまでの学習を振り返り、ごみを減らすために自分にできる取組を考えている。

	<p>○自分たちが使っている水がどこから来るのかを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の水道マップづくりを通して、毎日たくさんのお水を使っていることに気づく。 ・市内全域で必要となる大量のお水が、どこから水が来るのかを知る。 <p>○浄水場見学を通して、汚れた水が自然に及ぼす影響を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水は、明石海峡大橋に設置された送水管を通して、本州から送られてくることを知る。 ・汚れた水をそのまま川に流すと、川だけでなく、その先の海までも汚し、自然環境を壊してしまうことに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> *校舎内にいくつの蛇口があるかを調べさせ、毎日たくさんのお水を使っていることに気づかせる。 *家庭での水の使用状況を想起させ、市全体の使用量をイメージさせる。 ★学校生活や家庭での水の使い方を調べ、水を大量に使用していることから、身近な水道に関心をもっている。 <ul style="list-style-type: none"> *浄水場の資料から、調べたいことや働いている人に尋ねてみたいことを考えさせる。 *日常生活の中で使い、汚れた水をどうすればよいかを考えさせる。 ★環境保全のため、自分たちにできることについて、主体的に考え、意見を表現している。 <p>※淡路市小学校社会科副読本「わたしたちの淡路市」</p>
4	<p>○浦川に棲む生き物調査を通して、環境保全の大切さに気づく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浦川で生き物を捕獲し、種類や数などを調査することを通して、川の水の汚れ具合を確かめる。 ・川や海辺をきれいにすることで、そこに棲む生き物を守ることができることに気づく。 <p>○淡路市の鳥「チドリ」が絶滅に瀕していることを知る。 本時</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「チドリ」の生態や生息数の変化、生息地の環境を知る。 <p>○海洋ごみが自然に与える影響を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マイクロプラスチックの存在と海の生き物に与える影響や海洋ごみのことを知り、自分たちのごみを出さないことや海岸をきれいにすることの必要性に気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> *むやみに生き物を驚かせたり傷つけたりしないように気をつけながら活動するようにさせる。 *川の水の色やにおいにも着目させる。 ★昨年の活動の際に見た生き物の様子などと比較し、浦川の環境について考えている。 <p>◇兵庫県立大学大学院 澤田 佳宏 准教授による出前授業</p> <ul style="list-style-type: none"> *大画面モニターに資料を提示することで、「チドリ」の生息環境が大きく変化していることや、生息数が激減していることを理解しやすくする。 *フィールドスコープを活用し、「チドリ」の動きを全員が確認できるようにする。 ★「チドリ」に興味を抱き、生息数が激減していることや、その原因について理解している。 <p>◇淡路島ちどり隊による出前授業</p> <ul style="list-style-type: none"> *大画面モニターに資料を提示することで、海洋ごみについての理解を深めさせるとともに、海の生き物が海洋ごみによって命を脅かされていることを実感させる。 ★海洋ごみが自然に与える影響を理解し、自分たちにできるは何かを考えている。 <p>◇淡路島を耕す女 山口 久仁子 氏による出前授業</p>

7	<p>○塩浜海岸に出かけ、漂着ごみや「チドリ」の様子を観察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペットボトルやサンダル、釣り糸や釣り針など、たくさんのごみが落ちていることに気づく。 ・砂浜のごみをめあてに群がるカラスによって、「チドリ」が安心して卵を産んで育てることができる環境を作るためにできることを考える。 <p>○仲間を集めて海岸清掃をするために、意欲をもって計画・準備を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年生や「ひまわりさん」を誘って、一緒に清掃活動をするための計画を立てる。 ・地域の人たちに参加を呼びかけるための方法を考え、準備をする。 <p>○塩浜海岸の清掃活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海や海辺の生き物の命を守りたいという意欲を持ち、力を合わせて清掃活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> *海岸のごみには、環境を壊すものと「自然ごみ」があることを知らせる。 *擬似卵を使って、保護柵で「チドリ」の卵を守る様子を知らせる。 ★「チドリ」が安心して暮らせるようにするにはどうすればよいかについて、自分の考えを持ち、伝え合っている。 <p>◇淡路島ちどり隊との連携による校外学習</p> <ul style="list-style-type: none"> *海岸清掃の実施に向け、どのような役割が必要かを考えさせる。 *より多くの人に参加してもらうには、どのような方法で呼びかけるのがよいかを考えさせる。 ★ビーチクリーンが成功するように、どのように役割を果たせばよいか、自分なりの意見をもって話し合っている。 *互いに声をかけ合ったり、助け合ったりしながら活動するようにさせる。 ★障害のあるなしにかかわらず、声をかけたり助け合ったりしながら活動し、よりよくかかわろうとしている。 <p>◇障がい者就労支援施設「ひまわり作業所」、淡路島ちどり隊、淡路島を耕す女 山口 久仁子 氏、環境保護ボランティア「Awaji Blue」との協働活動</p>
4	<p>○地域の人たちへの啓発方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで相談し、準備をする。 <p>○まとめの発表をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境保全の必要性に気づいてもらいたいという意欲をもって、取組のまとめを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> *よい方法が思いつかない場合には、生活経験につなげて考えさせる。 ★伝えたいことを明確にした表現ができている。 *聞き手にやさしい話し方について確認する。 ★聞き手を意識し、声の大きさや話す速さなどを工夫したり、資料を指し示したりしながら発表することができている。

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

・淡路市の鳥「チドリ」に興味をもち、生息数が激減していることやその原因について理解する。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<p>○淡路市の鳥というものがあり、それは「チドリ」であることを知る。</p> <p>・淡路市の花（カーネーション）は知っていたけど、淡路市の鳥があるなんて知らなかった。</p> <p>・「チドリ」って、どんな鳥なんだろう。</p>	<p>* 立田 彩菜 隊長をはじめとする淡路島ちどり隊の方々を紹介し、塩浜海岸には淡路市にとって大切な鳥がいることを知らせる。</p>
<p>○平安時代につくられた和歌に詠われているほど、「チドリ」は大昔から淡路島に生息していたことを知る。</p>	<p>* 「淡路島 かよふ千鳥の鳴く声に 幾夜めざめぬ 須磨の関守（源 兼昌）」を詠み、その歌の情景を思い浮かべさせる。</p>
<p>○「チドリ」の生息数が激減し絶滅危惧Ⅱ種に指定されていることを知り、その原因を考える。</p>	<p>* 大画面モニターに資料を提示することで、「チドリ」が生息するための環境が大きく変化していることを理解しやすくする。</p> <p>* 提示されたグラフや写真などの資料が読み取れているか、確認しながら話を進める。</p> <p>★「チドリ」に興味を抱き、生息数が激減していることや、その原因について理解している。</p>
<p>○淡路島ちどり隊の活動の話を聞き、「チドリ」の絶滅を食い止めるために、自分たちにもできることがあることを知る。</p>	<p>* 教室と塩浜海岸とをオンラインでつなぎ、フィールドスコープを活用して「チドリ」の動きを全員が確認できるようにする。</p>
<p>○本時の学習を振り返り、わかったことや考えたことなどを発表したり質問をしたりして、淡路島ちどり隊の方々と交流する。</p>	<p>* 児童からの質問を受け付け、淡路島ちどり隊の方々に答えてもらうことで、交流を深める。</p>

3. 今回の活動の自己評価（○…成果・▲…課題）

- 本活動の全体を通して、大学やボランティア団体等たくさんの協力を得ることができた。児童は、そうした環境保全への強い思いを持ち活動している方々と出会い、学び、ともに活動する中で、一人ではできないことでもみんなで協力し合えばできるということを実感することができた。
- ビーチクリーンプロジェクトの活動を通して、障害のある人は助けが必要な人ということではなく、障害のあるなしにかかわらず人それぞれ持っている能力に違いがあり、その能力を活かし合いながら生きていることを知ることができた。
- 本助成により整備した ICT 機器の活用により得られた視覚情報によって、川や海辺の生き物の生態をより身近に、より詳しく捉えることができた。
- ▲屋外での活動が必要なため、活動予定が天候に左右されてしまう。また、年間指導計画と協力者の都合とを合わせることに難しい。

4. 今後の課題

- ・外部講師や地域ボランティアとの日程調整が難しい。雨天時の対応等についてもきちんと相談し、目的・目標が達せられるよう準備しておく必要がある。
- ・本実践における経験が、児童の今後の主体的な環境保全活動にどれだけ表れるかを見取り、本実践の評価していく必要がある。
- ・児童が、地域の川や海などの自然環境により強い愛着をもつ活動を系統的に組み入れる必要がある。
- ・児童が主体的に地域とかわかっていくために、今後も地域課題を解決する探究的な学習の進め方を検討していく必要がある。
- ・担当が代わっても外部講師や地域ボランティアと連携していけるように、地域人材のデータベース化を進め、より一層地域との連携を深めていくことが重要である。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

- ・協力者、団体等の名称は伏せてください。
- ・添付資料について、淡路市及び本校が作成したもの以外の掲載は避けてください。